

●演習ワークシート

事例 1

症例：60 歳代，男性

放射線性腸炎により食事が十分摂れておらず，2 週間の末梢点滴を実施している。その後，PIC カテーテルを左上肢から挿入。高カロリー輸液（1kcal/mL）30mL/時を開始した。糖尿病があり食事療法中。褥瘡がしやすい。

身体所見

来院時の体重 50 kg（身長 170cm）

意識	血圧	心拍数	呼吸数	SpO ₂
JCS 1-1	120/80mmHg	70 回/分	15 回/分	95%

口腔・腋窩・皮膚乾燥（－）

ツルゴール低下（－）

排尿は可能であり，量も保たれている

検査結果

血液検査

WBC	Hb
5000/mL	15g/dL

生化学

Na ⁺	K ⁺	Cl ⁻	BUN
135mEq/L	4.1 mEq/L	95 mEq/L	18 mg/dL

Cr	血糖	蛋白	Alb
1.0 mg/dL	100 mg/dL	5.0 g/dL	1.8 g/dL

胸部 X 線検査：CTR 45%

尿中ケトン：陽性

演習課題

以下の各課題について，時間内にワークシートに記載してください。

課題 1 手順書に従って高カロリー輸液の投与量の調整を行えるか考察してください。

課題 2 必要エネルギー量の面から考察してみましょう。

課題 3 蛋白必要量の面から考察してみましょう。

課題 4 脂質必要量の面から考察してみましょう。

課題 5 ビタミンおよび微量元素必要量の面から考察してみましょう。

●演習ワークシート

事例 1 の追加情報

特定行為施行後 2 日経過

意識レベル	血圧	心拍数	呼吸数	SpO ₂
JCS I-0	120/80 mmHg	70 回/分	15 回/分	91%

CTR	血糖
55%	250mg/dL

演習課題

課題 6 特定行為としてどのように対応したらいいか考えてみましょう。

手順書

持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整

【当該手順書に係る特定行為の対象となる患者】

1. 栄養状態の悪化が認められる場合
2. 脱水が疑われる場合
3. 持続点滴が長期に及ぶ場合

病状の範囲外

不安定
緊急性あり

担当医師の携帯電話に直接連絡

【看護師に診療の補助を行わせる患者の病状の範囲】

- ☐ 意識状態の変化なし
- ☐ バイタルサインの変化なし
- ☐ SpO₂ ≥ 92%

病状の範囲内

安定
緊急性なし

【診療の補助の内容】

持続点滴中の高カロリー輸液の投与量の調整

【特定行為を行うときに確認すべき事項】

- ☐ 意識状態の変化
- ☐ バイタルサインの変化
- ☐ SpO₂（過剰輸液による肺水腫の懸念）
- ☐ 血糖値（糖負荷による影響のチェック）
- ☐ 刺入部の状態（発赤，出血，感染徴候など）

どれか一項目でもあれば，下記の確認をして担当医に連絡

- ☐ 血圧
- ☐ SpO₂
- ☐ 血糖値

担当医師の携帯電話に直接連絡

【医療の安全を確保するために医師・歯科医師との連絡が必要となった場合の連絡体制】

担当医師

【特定行為を行ったあとの医師・歯科医師に対する報告の方法】

1. 担当医師の携帯電話に直接連絡
2. 診療記録への記載

厚生労働省（2018）．特定行為に係る手順書例集．より

●演習ワークシート

実習日： 月 日

研修生番号：

研修生氏名：

事例を確認し、各課題（問い）に対する考察を記述してください。

演習課題

課題 1 手順書に従って高カロリー輸液の投与量の調整を行えるか考察してください。

課題 2 必要エネルギー量の面から考察してみましょう。

課題 3 蛋白必要量の面から考察してみましょう。

課題 4 脂質必要量の面から考察してみましょう。

課題 5 ビタミンおよび微量元素必要量の面から考察してみましょう。

課題 6 特定行為としてどのように対応したらいいか考えてみましょう。